



IUFRO-J NEWS

No. 76 (2002.8) —

ユフロ第41回バンクーバー理事会

東京大学 鈴木和夫

第41回ユフロ理事会がバンクーバーで6月14日～21日にかけて開催された。新しいユフロ会長シェバラ (Risto Seppala) 体制での実質的な最初の理事会の開催である。今回は、従来の拡大理事会 (タスクホース委員会や副コーディネーターを含む) とは異なり、正式理事会 (会長、副会長2名、前会長、部会長8名、理事 (General Member) 10名、SPDC コーディネーター、会計理事、事務局長、FAO 代表、世界大会組織委員長、以上27名で構成される) (詳細は IUFRO-J NEWS 73 参照) の開催で、従来の事務局員を含む80名前後の拡大理事会とは違って小人数の理事会であった。それでも、元会長、名誉会員、CIFOR 代表、同伴者などを含めると50名を超える参加者であった。

最近のユフロで大きく変わったことは、ロゴマークである (写真1)。前回のプラハ理事会で1票差で棄却されたロゴマーク (IUFRO-J NEWS 73) は、再びEメール理事会で新しい提案が検討されて、新たなロゴマークの登場となった。IUFRO News 31 (1), 2002 では、'IUFRO's New Image' について巻頭の3ページが割かれて、Good-bye Old IUFRO Logo となっている。IUFRO New logo 2002 の登場である。京都大会以来日本に馴染みの深いユフロ・ロゴマーク (1969-2001) とお別れである。時の流れは、Forestry から Forest への New Image の定着で、新しいロゴマークのデザインは、水、葉、年輪、地球のキーワードからなり、持続的発展をイメージしたものだという。勿論、2002年のIUFRO News から新しいデザインのロゴマークが用いられている。

この時期のバンクーバーは、至る所でシャクナゲが咲

いて、相変わらず美しい。国土面積がわが国の27倍、人口が約四分の一の自然環境は、考えてみると、わが国と百倍以上も何かが違うのである。

理事会の開かれた UBC (ブリティッシュ・コロンビア大学^(注)) のキャンパスは広大で、新渡戸稲造を記念した美しい日本庭園がジョージア海峡を見渡せる場所に作られている。今回の理事会は、ジョン・イネス (理事、ブリティッシュ・コロンビア大学教授)、エクスカーションはボブ・スザロ (前 SPDC コーディネーター、USDA



写真-1 ユフロの新しいロゴ

新しいロゴマークのデザインは、水、葉、年輪、地球のキーワードから成る持続的発展をイメージした

Forest Service PNW) とデニス・ディキストラ (第3部会長, オレゴン州) 各氏によって準備された。

6月14日午後には、例によって、翌日から始まる総会に提案すべき議題について科学部会 (Science Committee) と政策部会 (Policy Committee) が開催された。夕刻には、林学部主催の歓迎会が、林学部建物の1階ロビー (写真2) で、国際会議慣れした簡素で友好的な雰囲気の中で開かれた。

(注) 1915年 UBC 創立, 1918年林学短期コース開設 (当時、最も近い大学は東部のトロント大学であったという), 1921年応用科学部林学科設立 (従って、1971年には創立50周年記念が行われた), 1951年林学部設立, 現在の林学部 (Faculty of Forestry) は、Forest Resources Management, Forest Sciences, Wood Science の3学科から成っている。UBC 林学部の目標は、世界で最高の学部となることである、と掲げられている。

理事会

6月15日土曜日午前8時半、シェバラ会長による第2回理事会が開催された。会長は、例によって、理事会開催のホスト役を務めるジョン・イネス、カナダ森林局、アメリカ森林局、機関を代表するFAO代表、CIFOR代表、元会長などの名誉会員に対して、感謝の意を表した。2日間にわたる理事会の議事次第は以下の通りである。

- 1 開会挨拶
- 2 会議事項および議事日程の確認
- 3 前理事会の議事録承認
- 4 前理事会以降の新たな課題
特になし
- 5 近況報告とユフロが交わした協定

ユフロの近況として特筆すべきは、オーストリア政府

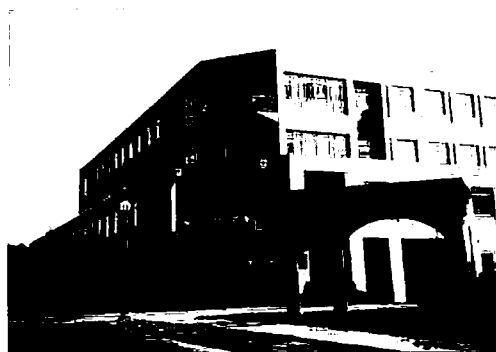


写真-2 ブリティッシュ・コロンビア大学林学部の瀟洒な建物

との協議によって、ユフロ事務局が狭隘解消のために現在のシェンブルンからマリアブルン (IUFRO-J NEWS 73 参照) に引越すことである。2002年5月に、ユフロ会長とオーストリア政府との間で、次のような項目が合意された。1) ウィーン内に現在よりも広い事務局の提供, 2) 係わる移転経費の負担, 3) 副事務局長の提供, 外国語エディターおよび事務員の給与の負担 (オーストリア政府は多言語に堪能な事務員1名分の給与についてはすでに負担済みである)。

また、現事務局長は2003年11月に退任なので、オーストリア政府は、新事務局長候補者を提案し、その給与を負担する。しかし、ユフロ理事会においてオーストリア人候補者が選考されなかった場合には、オーストリア政府は事務局長の給与を負担しない。ということで、本理事会において後任の事務局長選考のための選考委員会が発足し、公募を開始した。公募の締め切りは2002年10月31日である。なお、ユフロ・ホームページ (<http://iufro.boku.ac.at>) に最新情報掲示板 (Noticeboard Latest Information) があり、そこに、Position Announcement IUFRO Executive Secretary として、詳細が公示されている。

ユフロが新たに交わした協定 MOU (Memorandum of Understanding) には、1) CIFOR, 2) UNU (United Nations University), 3) the University of West Hungary, Sopron, 4) Korea Forest Research Institute (KFRI), 5) International Forest Students Association (IFSA) などがある。

6 国際的課題

目下、ユフロの最も重要な課題は、UNFF (United Nations Forum on Forest) への貢献である。今年3月に、ニューヨークで開催された UNFF で、ユフロ事務局長が報告の機会を与えられたことは特筆に値する。また、関連して、CPF (Collaborative Partnership on Forests) メンバーになる努力が必要であることが検討された (CPF 議長は、現在 FAO 林業部長のホスニー・エルラッカニー氏が務め、同氏はユフロ理事会メンバーでもある)。

さらに、検討事項をあげれば、UNFF 2003, CBD (Convention on Biological Diversity), ASEM (Asian-European Meeting), European Ministerial Conference on Protection of Forests in Europe 2002, Earth Summit 2002 などへの対応についてであった。しかし、最後の項目である本年8月開催のヨハネスブルグ・サミットについては、時間と資金の不足から、対応が無理であることが確認された。

7 科学部会 (Science Committee)

従来のプログラム委員会 (Programme Committee) である。最初の議題は、すでにいままでメール理事会で検討されてきた 'Forests, source of life' をテーマとする第12回世界林業会議 (カナダ・ケベックにて2002年9月開催、写真3) において、ユフロがどのような主張をすべきかについてであった。

一方、Research Group や Working Party の活性化のために新たな評価システムの導入が検討され、また、今後不活発なワーキンググループを積極的に解散する方針が確認された。

最後に、新たな特別委員会 Task Force on Biotechnology の設置が認められた。

8 ユフロ世界大会

2005年、オーストラリア・ブリスベンで開催予定のユフロ世界大会についてさまざまな報告と検討がされた。その中で、新たな賞として学生の修士論文を対象にした ISA (IUFRO Student Award for Excellence in Forest Science) の新設が決まった。当初、ISA 受賞者に400US\$の副賞が検討されたが、大勢が賛成する中で、賞状だけで十分ではないかと、個人的には反対した。その結果、ユフロは賞金は出さないことになり、出来る限りスポンサーを見つけることになった。

9 政策部会 (Policy Committee)

従来の運営委員会 (Administration Committee) である。APAFRI (Asia Pacific Association of Forestry Research Institutions) の支部としてのMOUの承認、国際科学会議 ICSU (International Council for Sci-

ence) への正式加盟、などについて合意された。

10 財政報告

公平性の観点から新しい会費制度が検討され、新しい会費について、クラスI (貧) ~ クラスIV (富) までを100, 200, 300, 400 EUR にすることなどについて検討された。これらの検討結果は、今後、国際委員会 IC (International Council) に踏られることになる。

今期は、財政的には100万ユーロ (1億円) 不足が予想されることから、財政の健全化が急務であると報告された。

11 プロジェクト

SPDC (Special Programme for Developing Countries), GFIS (Task Force on Global Forest Information Service), WFSE (Special Project on World Forests, Society and Environment), Terminology Project などのプロジェクトについて報告された。とくに、日本のODAの支援によるところが大きい SPDC は、バーレー前会長らによる IUFRO-SPDC Advisory Group が作られて、今後の展望について検討されてきている。そして、2002-2005計画が承認され、その中には、共同研究ネットワークとして、わが国の支援によって行っている BIO-REFOR (従来の Biotechnology-assisted Re/afforestation in Asia-Pacific Region Project から、新しく Biodiversity and Re/afforestation in Asia-Pacific Region Project へと名称を変更) 活動と、ヨーロッパ委員会 (European Commission) が支援している GFIS 活動に関連した Rehabilitation of degraded forest lands in Africa の2つが取り上げられている。

12 出版物

新しいロゴマークの使用や電子ニュースレターである IUFRO e-Notes (<http://iufro.boku.ac.at/>) の紹介などであった。

以上のように、理事会における検討課題は膨大で、相変わらず、多くの課題はロビーにおいて決着がつけられる場合が多い。

エクスカージョン

例によって、6月17日-21日にかけて、理事会のエクスカージョンが組まれていた。専門領域がそれぞれ異なる理事会メンバーのブレインストーミングの場でもある。エクスカージョンで訪れた数枚の写真を紹介して、エクスカージョンの雰囲気を感じて頂ければ幸いです。

17日：バンクーバーからフェリーでバンクーバー島に向かう。バンクーバー島はその三分の一が保護林と

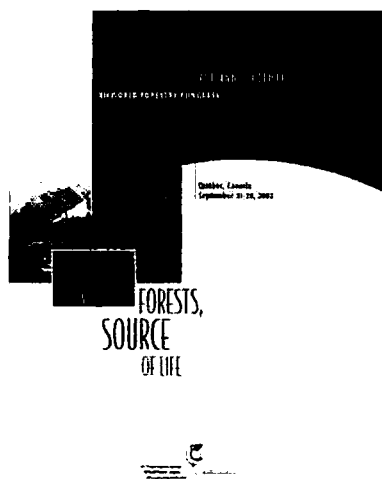


写真-3 世界林業会議の1stサーキュラー

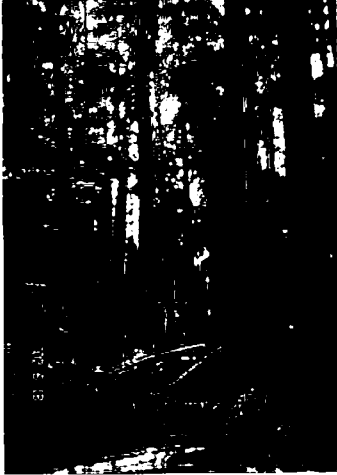


写真-4 Coastal rain forest
Douglas fir (*Pseudotsuga menziesii*),
Western red cedar (*Thuja plicata*),
Western hemlock (*Tsuga heterophylla*),
Yellow cedar (Yellow cypress) (*Chamaecyparis nootkatensis*) などの針葉樹からなる成熟林

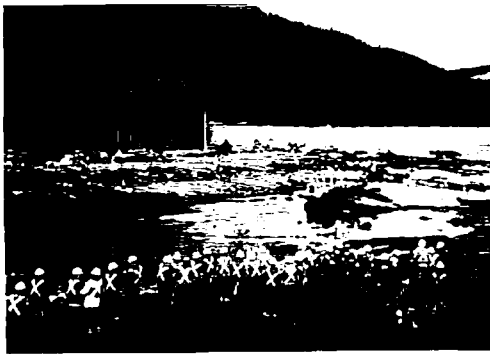


写真-5 バンクーバー島アルベニの入り江に面したウェアハウザーの集材場

なっているが、Douglas fir (*Pseudotsuga menziesii*), Western red cedar (*Thuja plicata*), Western hemlock (*Tsuga heterophylla*), Yellow cedar (Yellow cypress) (*Chamaecyparis nootkatensis*) などの針葉樹から成る素晴らしい成熟した coastal rain forest を見ることができ (写真4)。

18日: 1900年に36万haの森林で操業を開始したというウェアハウザーの森林と林業のスケールの大きさを堪能し (写真5), sheltered system から retention



写真-6 カナダ森林局 Pacific Forestry Centre
アルバータ大学に滞在中、当時 (17年前)
大学院生だったエリック・アレンが中堅ス
タッフとして研究所を紹介した



写真-7 ワシントン州オリンピアにて
湖畔の夕暮れを楽しむ、左から、ボブ (前
SPDC コーディネーター)、ミッシェル
(SPDC コーディネーター)、カズオ (筆者)、
ハインツ (事務局長)



写真-8 セント・ヘレンズ山山頂

system へ、50 年伐期から 200 年伐期への移行しつつある silvicultural system を見学した。その後、ヴィクトリアに位置するカナダ森林局 Pacific Forestry Centre (写真 6) を見学して、フェリーで再びバンクーバーに上陸し、陸路ワシントン州・ポートランドへ向かった。

19 日: アラスカにも研究センターと試験林をもつアメリカ森林局 PNW 研究所 (Pacific Northwest Research Station) ボブ・スザロ副所長の出迎えを受けて、研究所およびワシントン州有林を視察した (写真 7)。

20 日: 1980 年 5 月に大爆発したセント・ヘレンズ山にあるウェアハウザー森林学習センターでウェアハウザーによる森林再生の様子を見学した (写真 8)。

次回のユフロ理事会は、拡大理事会として開催され、

カナダ・ケベックで開催される世界林業会議の後半に予定された。

なお、ユフロ・ホームページ (<http://iufro.boku.ac.at>) には、以下の項目が掲示されているので、是非ご参考に願いたい。

IUFRO Congress 2005

Calendar of IUFRO Meetings

GIFS Global Forest Information Service

Noticeboard latest Information

World Forestry Congress 2003

IUFRO Latinamerica

International Members of IUFRO

Links to the UN System

Partners nad Principal Sponsors

第 4 回国際森林植生管理会議に参加して

山梨県森林総合研究所 長 池 卓 男

2002 年 6 月 17-21 日に、フランス・ナンシーで開催された第 4 回国際森林植生管理会議 (International conference on forest vegetation management) に参加、発表する機会を得た。この会議は、ニュージーランド、アメリカ、カナダに続いての開催である。一言で植生管理と言っても守備範囲が広いように、発表も除草剤・かき起こしによる人工林の植生管理、除草剤散布による野生生物への影響、河畔林の植生復元、過去の土地利用の違いが現在の植生に及ぼす影響など、多岐にわたった。基調講演 16 (うち招待講演 7)、口頭発表約 100、ポスター発表約 60 が、1 日かけた field trip を含む 5 日間で発表された。参加者はフランス、カナダ、アメリカを中心に 170 名あまり、日本からは私を含めて 2 名であった。

基調講演のいくつかを紹介する。Thompson (この会議の Scientific committee の一人) は、カナダにおける植生管理の実態と研究活動について概説した。近年は、除草剤の空中散布が減って下刈り機による管理が増えているものの、州によってその状況は大きく異なるそうだ (ケベック州では除草剤使用は減っているが、オンタリオ州では減っていない)。最近 10 年間のこの分野の論文数は年平均 56 編で光を巡る競争に関する研究が多くを

占めていること、しかしながら植栽から伐採までのすべての期間を考慮した研究はほとんどないことが指摘された。今後の研究展開として、より大きな空間スケールでの長期にわたる研究、生態系全体を視野に入れた影響評価、代替案の検討を含む詳細な経済的な解析などが必要であることを説いた。さらに、複数の森林認証制度における基準・指標を考慮した影響評価が今後必要になることを指摘した。ベルギーの Hermy は、「私の話は、少し異なった視点です」と前置きして話し始めた (Hermy は、過去の土地利用の違いが植物種多様性に及ぼす研究の世界的第一人者。私のポスターも見てください、さらに握手していただき、本当にうれしかったです!)。過去の土地利用期間の長いヨーロッパでは、どのようにその土地が利用されてきたかを明らかにすることが重要であるので、そのことを考慮した研究が盛んに行われている。しかしながら土地利用の変遷は非常に複雑であるので、古地図等の情報が比較的残っているヨーロッパでさえ、過去のことを明らかにするのは難しいことだ、と言っていたのは印象的だった (dark past と言う言い方をしていた)。さらに、国によって ancient forest の定義が違うこと (イギリスでは 1600 年、オランダでは 1830 年より前から森林であったものを ancient forest という)、し



写真-1 19世紀以前は採草地、庭園、畑であった場所

たがってそのような林分に依存して生育する ancient forest species も異なってくることを指摘した。その上で、彼らのグループ (Bossuyt, Honnay, Verheyen) や関連する研究 (Peterken, Dzwonko, Foster ら) を概観し、種子散布能力や土壌窒素量の要求性の違いが種の分布に関する重要な要因であることから、残存している森林パッチ間の距離や配置、接続性などの空間的問題を含めて考慮することが人工林における植物種多様性の問題を考える上で重要であると指摘した。そして、ターゲット種として ancient forest species を用いることによって、重要なハビタットを保全するアプローチが示された。有効性についての議論はあるものの、Ellenberg indicator values (中央ヨーロッパのフロラにおける種ごとに、光、土壌水分、土壌窒素量、pH への要求度を数値化したもの) のような、ある程度統一的に使用することができる種の指標性がヨーロッパでは整っていることによって、種の分布や攪乱に対する反応性に関する共通理解が進んでいることを感じた。

その他の発表では、地上・地下部の競争も意識した植栽した *Fagus* を用いての野外実験系 (Coll), ミネソタでの *Quercus pagoda* の更新に及ぼす部分的伐採と日本のスイカズラの侵入種としての影響 (Gardiner), 雨水害を受けた後の森林回復の樹種による違いと林内の光環境の関係 (Messier) など、興味深い研究も多かった。

19日には、field trip が3班に分かれて行われた。私は、"Ancient land-use history and current ecosystem functions: a tour in the past" に参加した。この field trip のためだけに、丁寧な解説書が作成されており、非

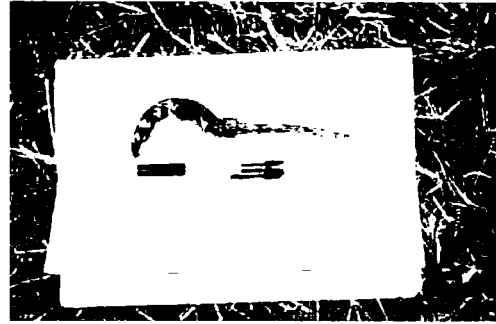


写真-2 調査地から発掘されたローマ時代の道具 (小型の鉞)

常に有用であった。過去の土地利用の違いが現在の植生に及ぼす影響について *Journal of Ecology* や *Oecologia* に発表した調査地を本人 (Koerner) の案内で見ることができた (写真1)。採草地、庭園、畑などの過去の土地利用の同定についての質問がされたが、発掘や過去の資料等によって推定しているようだ。また別の場所では、ローマ時代の道の周辺での土地利用を発掘によって明らかにしたところでの植生に違いも見出し、発掘による出土品によって時代を推定しているとのことであった (写真2)。

私は、22-28日の post conference tour にも参加し、フランス中部から地中海およびアルプス方面での森林管理研究を見させてもらった。非常に多様な森林を見せて頂き、フランスの森林を垣間見るのに大変有効なツアーであった。このツアーの参加者はアメリカ人3名、カナダ人2名に私と運転手兼案内人のフランス人研究者の計7名で、7日間2,400kmの旅であった。

過去数百年にも及ぶ土地利用の歴史とその変遷を無視できない調査地を多く見させてもらった。地中海に面するモンペリエから北へ100kmほどに位置する石灰岩台地上の Causse Mejean では、数百年間の羊の放牧が行われてきたが近年放棄され、そこへ自生種である *Pinus sylvestris* と外来種で植栽されている *Pinus nigra* による森林化が進んでいる (写真3)。地中海性植物の貴重な生育地となっていることから、国立公園の管理上も問題視されており、今後再放牧も検討されているそうである。

また、「植生管理」と言う性格上、何らかの処理 (かきこしの頻度と回数など) とその繰り返しによる、乱雑法等による実験設定が発表でも多く見られたが、このツアーでも実際に見ることができた。イタリア国境に近い Gap (地名です) 近郊の標高1,300mで行われている、グ



写真-3 石灰岩台地上の放牧放棄地におけるお花畑

ルノーブル大学の Tavanet らの例を紹介する。 *Picea-abies*, *Abies alba* などが優占する針葉樹林で 1985 年に 30 m×30 m 程度の部分的皆伐が数カ所行われたところに、ヤナギランが一面に生育している。そこに、2×2 要因（遮光シートで覆う・覆わない、ヤナギランを刈る・刈らない）の試験地を複数設定し、植栽した *Picea*, *Abies*, *Larix*, *Fagus*, *Acer* の生存・成長・窒素利用性を調べていた（写真 4）。その結果、ヤナギランがある場合、*Fagus*, *Acer* の生存率は遮光あるなしで変わらないが、*Picea*, *Abies* は遮光によって生存率が下がること、また、ヤナギランがない場合、植栽種の窒素利用効率は遮光あるなしで変わらないが、ヤナギランがあると遮光することによってヤナギランの窒素利用効率が下がり植栽種の窒素利用効率が高まること、が明らかにされた。この結果は、来年の Ecology に掲載されるそうである。

人工林において植栽種でいかに早く成林させるか、という意味における植生管理に関する研究は、現在の日本ではほとんどされていないといえるが、今後の新たな森



写真-4 針葉樹林における光環境と下層植生の制御による操作実験

林管理を考える上で地域の自然性と歴史性を組み合わせた植生管理研究というものが日本でももっとあってよいものだと思いますながら、パカンスに旅立つ多くの人々でこた返すバリの空港から帰途についた。なお、次回のこの会議は 2005 年にオレゴンで開催される。

最後ではあるが、IUFRO 研究集会参加助成を頂いてこの会議に参加することができた。海外出張などない地方林試の研究者としては、非常に有用な助成であり、また採択していただいたことにも厚く感謝申し上げます。また、今回の参加にあたり数々の業務が滞るにも関わらず送り出していただいた、山梨県森林総合研究所のみなさんにもお礼申し上げます。

これからの研究集会予定 (ユフロニュース 第31巻1号 (2002) による)

IUFRO 研究集会

第1部

9/16～9/20: ドイツ
 「第10回ヨーロッパモミの生態と造林に関する IUFRO 国際シンポジウム」
 連絡員: Dr. Walter Eder
 Tel: 49-6131-165957 Fax: 49-6131-165926
 E-mail: walter.eder@muf.rlp.de

10/7～10/11: マレーシア

「第7期フタバガキ科に関する会議」
 連絡員: 第7期会議事務局 (APAFRI)
 Tel: 60-3-62722516 Fax: 60-3-6277-3249
 E-mail: dipconf@apafri.upm.edu.my

第2部

9/11～9/15: ギリシャ
 「2002 木材の種子」
 連絡員: Costas A. Thanos
 E-mail: cthanos@boil.uoa.gr
 URL: http://www.cc.uoa.gr/biology/TreeSeeds2002.htm

9/16～9/21: フランス
 「成長、樹幹形や木材品質のためのカラマツの改良」
 連絡員: Mrs P. Montes
 Tel: 33-2-38417824 Fax: 33-2-38417879
 E-mail: montes@orleans.inra.fr

9/16～9/27: ギリシャ
 「林木ストレス耐性のゲノムアプローチ先進的研究のワークショップ」
 連絡員: Prof. Andreas Doulis
 Tel: 30-821-81151 Fax: 30-821-81154
 E-mail: andreas.doulis@nagref-her.gr

12/ 2～12/ 5: フランス
 「森林生態系における遺伝的多様性の動態と保全」
 連絡員: Marie-Pierre Reviron
 Tel: 33-5-57122832 Fax: 33-5-57122881
 E-mail: reviron@pierroton.inra.fr

第3部

9/ 3～9/ 4: フィンランド
 「森林情報テクノロジー 2002 国際会議と展示会」
 連絡員: Dr. Esko Mikkonen
 Tel: 358-9-1917650 Fax: 358-9-1917755
 E-mail: Esko.Mikkonen@helsinki.fi

9/29～10/5: 日本
 「適切な保育・収穫作業を必要とするプランテーション林業の新しい役割に関するセミナー」
 Fax: 81-3-5841-7533

9/23～9/24: ギリシャ
 「第3回森林分野のロジスティックに関する世界シンポジウム: 木材生産と製紙産業のためのロジスティックス

のデザイン」
 E-mail: econpap@yahoo.com
 URL: http://members.surfeu.fi/otaniemi/sympgr-ec.htm

2003年

3/11～3/15: ニューゼーランド
 「第4回森林部門のロジスティックスに関する世界シンポジウム」
 E-mail: econpap@yahoo.com

5/12～5/15: スウェーデン
 「第2回森林工学会議」
 連絡員: Maria Iwarsson
 Tel: 46-18-188500 Fax: 46-18-188600
 E-mail: maria.iwarsson@skogforsk.se
 URL: http://www.skogforsk.se/fec

第4部

9/10～9/14: トルコ
 「早成プランテーションの経営」
 連絡員: Dr. Taneri Zoraliloglu
 Tel: 90-262-3492082 Fax: 90-262-3495497
 E-mail: kavak@ttnet.net.tr
 URL: http://www.kavak.gov.tr

9/19～9/23: ポーランド
 「山岳環境調査における地理情報システムとリモートセンシング」
 Tel: 48-22-8280269 Fax: 48-22-8270328
 E-mail: confe2002@enviromount.uj.edu.pl

3/11～3/15: ニューゼーランド
 「ユーカリ生産に関する会議」
 連絡員: Peter Sands
 Tel: 61-3-62267949 Fax: 61-3-62267901
 E-mail: peter.sands@ffp.csiro.au

第5部

9/ 1～9/ 3: スロバキア
 「シンポジウム 木材構造と特性 2002」
 連絡員: Marian Babiak
 Tel: 421-855-5206350 Fax: 421-855-5321811
 E-mail: babiak@vsld.tuzvo.sk
 URL: http://www.tuzvo.sk/~mamon/KND/engl/e_iufro.htm

9/ 8～9/15: カナダ
 「第4回ワークショップモデルによるアプローチとソフトウエアによるシミュレーションを通じた造林と木材品質との関係」
 連絡員: Gerard Nepveu
 Tel: 33-3-83394041 Fax: 33-3-83394069
 E-mail: nepveu@nancy.inra.fr

9/23～9/24: ギリシャ
 「第3回森林部門のロジスティックスに関するシンポジウム」

11月予定

「第4回国際チーク会議」

連絡員: K.M. Bhat

Tel: 91-487-282037 Fax: 91-487-282249

E-mail: kmbhat@kfri.org

URL: <http://www.kfri.org/>

2003年

11/10~11/15: オーストラリア

「第5部 IUFRO ミーティング: 森林生産研究—持続可能な選択のための備え」

連絡員: Lesley Caudwell

Tel: 64-7-3435846 Fax: 64-7-3435507

E-mail: alldiv5iufro@forestresearch.co.nz

第6部

9/11~9/15: イタリア

「ランドスケープの歴史的側面」

連絡員: Mauro Agnoletti

Tel: 39-55-30231276 Fax: 39-055-319179

E-mail: mauro.agnoletti@unifi.it

秋予定: ドイツ

「狩猟: 文化遺産」

連絡員: Sigrid Schwenk

Tel: 49-951-67568

予定: オランダ

「国際学生旅行」

連絡員: Tuija Sievanen

Tel: 358-0-85705769 Fax: 358-9-85705717

E-mail: tuija.sievanen@metla.fi

予定: デンマーク

「北欧諸国におけるジェンダーの調査」

連絡員: Ann Merete Furuberg Gjedtjernet

Tel: 47-90163092 Fax: 47-62945753

E-mail: merete.furuberg@hedmarkf.komm

URL: <http://frisweb.fris.sk/lufroune.no>

11/11~11/17: チリ

「第6部 ミーティング: 森林管理における協力とパートナーシップ」

連絡員: Susanna Benedetti

Tel: 56-2-6930722 Fax: 56-2-6381286

E-mail: sbenedet@infor.cl

1/13~1/15: ベルギー

「歴史と森林の生物多様性: 保全への挑戦」

連絡員: Prof. Charles Watkins

Tel: 44-115-9515151 Fax: 44-115-9513666

E-mail: charles.watkins@nottingham.ac.uk

URL: <http://www.agr.kuleuven.ac.be/lbh/lbnl/forestbiodiv/>

5月予定: チェコ

「第5回国際シンポジウム 経済変化を伴ったヨーロッパ諸国の新たな森林と環境法の実験」

連絡員: Peter Herbst

Tel: 43-4242-52471 Fax: 43-4242-264048

E-mail: hp@net4you.co.at

第7部

8/30~9/1: スロバキア

「森林生態系の長期間における大気汚染の影響」

連絡員: Blanka Mankovska

Tel: 00-421-045-5314169 Fax: 00-421-045-5321883

E-mail: mankov@fris.sk

9/8~9/14: チェコ

「新しい環境状態下の山岳林生態系の管理に関する国際セミナー」

連絡員: Vratislav Balcar

Fax: 420-443-42-393

E-mail: balcar@vuhmop.cz

9月: ポーランド

「中央ヨーロッパにおける森林昆虫と病害調査の方法論」

Tel: 1-203-230-4321 Fax: 1-203-2304315

E-mail: mlmcmanus@fs.fed.us

第8部

2002年

9/15~9/18: オーストリア

「山岳林の生態的・経済的利益」

連絡員: Robert Jandl

Tel: 43-1-87838 Fax: 43-1-87838-1250

E-mail: robert.jandl@fbva.bmlf.gv.at

URL: <http://fbva.forvie.ac.at/iym/ecology.html>

10/14~10/18: 日本

「インタープリバントの幹事会議」

連絡員: Gernot Fiebiger

Fax: 43-662-870215

E-mail: gerno.fiebiger@wlv.bmlf.gv.at

12/6: オーストリア

「例年地域ミーティング」

連絡員: Horst Schaffhauser

Tel: 43-512-573933 Fax: 43-512-572820

E-mail: horst.schaffhauser@uibk.ac.at

2003年

1/13~1/15: ベルギー

「歴史と森林の生物多様性: 保全のための挑戦」

連絡員: Charles Watkins

E-mail: charles.watkins@nottingham.ac.uk

IUFRO 地域ミーティング

10/14~10/18: 日本

「環太平洋地域におけるインタープリバント 2002」

連絡員: Michael McManus

Fax: 81-3-3263-7997

E-mail: IPR2002@ics-inc.co.jp

URL: <http://www.sabopc.or.jp/IPR2002>

IUFRO-J 平成 14 年度機関代表会議報告

平成 14 年 4 月 3 日、新潟大学五十嵐キャンパス B 棟 3 階 354 教室において、表記会議を開催いたしました。会議には A 会員 22 機関、B 会員 7 機関の計 29 機関代表と、鈴木和夫 IUFRO 第 7 部会長が出席されました。会議においては香川前主事の司会で議事を進めました。ここで審議・承認された議題の概要を報告いたします。なお、会議開催につきましては、第 113 回大会運営委員会の皆様に大変お世話になりました。この場を借りましてお礼申し上げます。

1. 平成 13 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No. 73 (2001. 8) : 理事会報告・集会報告・機関代表会議報告

No. 74 (2001.12) : Silva Voc-J 活動報告

No. 75 (2002. 3) : 集会報告

会誌送付会員 (平成 14 年 3 月 31 日現在 (会費納入者数)) の現状

A 会員 : 27 機関 (767) 名分納入済み
(会員数前年度比 : 減)

B 会員 : 23 機関 15 機関納入済み
(会員数前年度比 : 増)

C 会員 : 39 名 (32) 名納入済み
(会員数前年度比 : 増)

賛助会員 : なし

2) 理事会出席助成

鈴木理事第 40 回理事会 (2001. 3. 25 ~ 30, ウィーン, プラハ) 今年度予算執行

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局 (20 万円)

丸井英明 (新潟大学)

小林洋司 (東京大学)

参加 (10 万円)

長池卓男 (山梨県森林研)

2. 平成 13 年度会計決算報告

1) 一般会計 (平成 14 年 3 月 31 日現在)

(収 入)

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	2,606,778	2,606,778	
会費 A 会員	825,000	766,500	
B 会員	155,000	100,000	
C 会員	33,000	29,000	
前年度未収分	106,000	36,000	
会費前納分		0	
雑 収 入	1,000	830	利息
合 計	3,726,778	3,539,108	
(単年度収入合計)	(1,120,000)	(932,330)	

(支 出)

科 目	予 算	決 算	備 考
情報活動費	750,000	489,921	J-News印刷費・ 発送料
会 議 費	50,000	39,690	機関代表会議 (日 大)
旅 費	600,000	150,000	理事会出席助成
雑 費	10,000	21,540	振り込み手数料・ 送金手数料
予備費 助成	500,000	600,000	事務局・参加助成
次年度繰越金	1,816,778	2,237,957	
合 計	3,726,778	3,539,108	
(単年度支出合計)	(1,910,000)	(1,301,151)	

3. 平成 13 年度監査報告

平成 13 年度ユフロ-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適切であったことを認める。

平成 14 年 3 月 31 日

IUFRO-J 監 事

財団法人 林業科学技術振興所 事業部長
三 國 昇

平成 13 年度ユフロ-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適切であったことを認める。

平成 14 年 3 月 31 日

IUFRO-J 監 事

財団法人 日本林業技術協会 事務理事
根 橋 達 三

4. 平成 14 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号（予定時期）：掲載記事に関する事務局案、各号とも 16 ページ予定。

No. 76 (2002. 8)：集案内、集会報告、機関代表会議報告

No. 77 (2002. 10)：集会報告、理事会報告

No. 78 (2003. 2)：集会報告

各 1300 部印刷し、会員配布

※注：掲載記事は、IUFRO 活動で会員に広く知らせたい事項を優先したいと考えます。積極的に事務局にご相談ください。

2) 理事会出席助成

理事会及び Task force

3) IUFRO 研究会事務局・参加助成
未定

5. 平成 14 年度予算案

1) 一般会計

(収 入)

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	2,237,957	
会費 A 会員	820,000	27 機関
B 会員	150,000	23 機関
C 会員	39,000	39 名
未 収 分	11,500	会費未収 (H13 年度合計)
次 年 度 前 納		
雑 収 入	1,000	
合 計	3,259,457	
(単年度収入計)	(1,021,500)	

(支 出)

科 目	予 算	備 考
情報活動費	750,000	J-News 印刷費・発送料・封筒代
会 議 費	50,000	機関代表会議 (新潟大)
旅 費	300,000	理事会出席助成
雑 費	10,000	振り込み手数料・送金手数料
予備費 助成	500,000	事務局・参加助成
次 年 度 繰 越	1,649,457	
合 計	3,259,457	
(単年度支出計)	(1,610,000)	

6. 役員選出、承認

承認された平成 14 年度役員は下記の通り

役員	氏名	(所属)	(任期)
議長	廣居 忠量	森林総研	(H12 年 10 月～)
幹事	小林 繁男	森林総研	(H12 年 4 月～)
	山本 幸一	森林総研	(H14 年 4 月～)
監事	根橋 達三	日 林 協	(H13 年 4 月～)
	三國 昇	林 振	(H 9 年 10 月～)
主事	佐野 真琴	森林総研	(H14 年 4 月～)

7. その他

1. SilvaVoc 事業の結果報告について

SilvaVoc 事業は IUFRO 本部が 1995 年から実施している多言語林業・森林科学用語検討事業は 2001 年度をもって終了しました。1996 年に IUFRO 本部から

日本の関係者に協力要請があり、1997年からIUFRO-J事務局が日本の窓口として事業に協力してきました。その際、事業が専門用語の学術的検討であることから、それを行うに相応しい組織として日本林学会、日本木材学会に協力を求め、IUFRO-J事務局と両学会代表、担当でSilvaVoc-J委員会を組織し、SilvaVoc事業に協力してきました。この間、森林経理学専門用語集の編纂、森林科学用語集の編纂、多言語データベースの開発、国際研究集会への参加など多くの成果を得てきました。

1) 2001年活動記録

SilvaVoc-Jの顧問である森林総研池田理事と松本光朗氏が、SilvaVoc-Jの活動と成果について本部に報告し、森林科学用語集とCD-ROMをIUFRO会長に渡した。

SilvaTermと多言語森林用語データベースは、連携しながら管理運営を続けていくこととした。

SilvaTermに日本語を表示するための技術開発を行った。

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-Jの活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために会費納入をお願いいたします。

A、B会員におかれましては、会費納入と併せて研究者（会則第5条）、連絡員（付則1）の登録（事務局への連絡）をいただいております。また、転勤・退職等で機関を離れた皆様には、あらためてC会員としてご登録いただきますようよろしくお願いいたします。

納入方法

郵便振り込みの場合

郵便振替口座：00190-3-159224

名義：IUFRO-J事務局

・事務局といたしましては、できる限り郵便振り込みをご利用いただきますようお願い申し上げます。

銀行振り込みの場合

関東銀行牛久支店 普通預金口座 697583

名 義：IUFRO-J事務局 廣居忠量

注意：-（ハイフン）をお忘れなく。事務局代表者名が変わりました。

IUFRO-J 入会申込書

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 会員種別 (該当するものに○) | 会費 (年間) |
| A 会員 (IUFRO 加盟機関) | 1,000 円×登録研究者数 (当該年度 4 月 1 日現在) |
| | 500 円×学生会員 (当該年度 4 月 1 日現在) |
| B 会員 (IUFRO 加盟機関) | 1,000 円×登録研究者数 (当該年度 4 月 1 日現在) |
| | または、定額 1 口 5,000 円を 1 口以上 |
| C 会員 (個人) | 1,000 円/人 |
| 賛助会員 (機関, 団体) | 1 口 10,000 円を 1 口以上 |

2. 会員名 (A, B, 賛助会員は機関・団体名, C 会員は氏名)
-

3. 会員住所 (会誌送付先, 会費請求先)

郵便番号 _____

住 所 _____

TEL : _____ FAX : _____

E-mail : _____

4. 登録研究者数 (A, B 会員) _____ 名

必ず、名簿を添付してください。学生会員につきましては区別して記載してください。

5. 会費口数 (B, 賛助会員) _____ 口

B 会員は定額制を希望される場合に記入してください

6. 機関代表者氏名 (A, B 会員): _____

7. 連絡員氏名 (A, B 会員): _____

8. 申込年月日 _____

添付書類: 登録研究者名簿 (様式は任意)

事務局記入: 受付年月日 _____

IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領

対象集会: IUFRO 関連研究集会 (参加の場合は、海外に限ります。)

助成金額: 事務局 : 20 万円/団体,
集会参加: 10 万円/人 を目途とします。

応募資格: 会費を納入している機関、会員

- 会則第 5 条に則り、研究者登録をお忘れ無くお願いします。事務局で会費納入を確認できない方は助成の対象にできません。
- 研究集会参加は筆頭発表者に限ります。

募 集: 随時受け付けています。

別添申請書に必要事項を記入し、必要資料を添付して、下記まで送付。
〒305-8687 茨城県稲敷郡笠崎町松の里 1 番地 森林総合研究所内
IUFRO-J 事務局 宛

選 考: 12 月末現在で集計し、集計時から 1 年 3 ヶ月後までに開催される研究集会を選考対象として選考委員会に諮ります。

(2002 年 12 月末集計時の選考対象は、2004 年 3 月末までに開催される研究集会となります。)

選考結果: IUFRO-J News で発表。

配布時期: 原則として集会開催 1 ヶ月前。

(国際集会の場合、キャンセルになる場合もありますので、できるだけ直前とします。)

備 考: 助成を受けた機関・会員には IUFRO-J News への投稿を求めます。

注 意: 助成金額はあくまで日途です。

IUFRO-J 一般会計の収支状態によって、事務局で勘案いたします。

附 則:

(平成 9 年 4 月施行通知, 初出 IUFRO-J News No. 61)

(平成 9 年 7 月 10 日 IUFRO-J News No. 61 掲載一部改訂)

(平成 13 年 8 月 IUFRO-J News No. 73 掲載一部改訂)

事務局 受付年月日： _____
整理番号： _____

IUFRO 研究集会事務局・参加助成申請書

助成区分： 事務局 参加 (どちらかに○)

応募者氏名 (事務局の場合は代表者)：

所 属：

連絡先： 〒 _____

TEL/FAX _____

E-mail _____

研究集会名：

開催時期・場所：

集会規模：(概数)

IUFRO との関連：(例 第 x 部門のワークショップまたはシンポジウム)

助成金の主な使途 (事務局の場合)

発表題目 (研究集会参加の場合)

添付資料 (集会の内容や発表がわかる資料を、必ず添付してください。)

国際森林研究機関連合一日本委員会会則

(名称と目的)

第1条 本会は、国際森林研究機関連合一日本委員会（略称をIUFRO-Jとする）と称し、国際森林研究機関連合（以下IUFROと呼ぶ）の目的に沿って、その事業に協力するため、国内の森林・林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図るとともに、IUFROに関連する諸活動に貢献することを目的とする。

(業務)

第2条 本会は、前条の目的を達成するため次の業務を行う。

1. わが国におけるIUFRO加盟機関相互の情報交換の推進および連絡調整
2. IUFROの評議員会への代表および代理の決定
3. IUFROが組織する研究グループ活動の支援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

(事務局)

第3条 本会は、事務局を、茨城県稲敷郡茅崎町松の里

- 1 森林総合研究所内におく。

(会員)

第4条 本会の会員は、次の4種とする。

1. A会員 IUFRO加盟機関
2. B会員 IUFROに加盟していないが、本会の趣旨に賛同する森林研究機関
3. C会員 A、B会員の機関に所属していないが、本会の趣旨に賛同する個人
4. 賛助会員 本会の趣旨に賛同する機関または団体

(機関会員の研究者登録)

第5条 A、B会員に所属し本会の趣旨に賛同する研究者は、本会に登録するものとする。登録研究者に移動のあった場合は、その都度事務局に連絡する。

(会費および会計)

第6条 会費は次のとおりとし、毎年度のはじめに納入するものとする。A、B会員の会費は、当該年度4月1日におけるその機関の登録研究者数に応じた額（1人当たり年額1,000円、但し学生会員は500円）とする。ただしB会員については、定額制（年額1口5,000円を1口以上）をとることもできる。C会員の会費は年額1,000円とする。賛助会員の会費は年額1口10,000円を1口以上とする。

第7条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 本会の予算および決算は、機関代表会議に提出して、その承認を受けるものとする。

(役員)

第9条 本会に、次の役員をおく。

- | | |
|----|------------------|
| 議長 | 1名 |
| 幹事 | 若干名（うち1名を幹事長とする） |
| 監事 | 2名 |
| 主事 | 1名 |

第10条 議長は本会を代表し、会務を総括する。幹事は、会務執行に関する事項を審議し、幹事長は会務を執行するするとともに議長を補佐し、議長にさしつかえあるときはその職務を代理する。監事は、会計および会務執行の状況を監査する。主事は幹事長の職務を補佐する。

第11条 役員を選出方法は、次のとおりとする。議長、幹事および監事は、機関代表会議で選出し、幹事長は、幹事の互選とする。主事は議長が委嘱する。

第12条 役員任期は、2年とし、再任を妨げない。任期中に欠員のできた場合は幹事会において選出し、次期機関代表会議で承認をえるものとする。欠員を補充するため選出された役員任期は前任者の任期の残りとする。

(会議)

第13条 会議は、機関代表会議および幹事会とする。

第14条 機関代表会議は、A、B会員それぞれの機関で選ばれた代表（1名）で構成する。通常毎年度頭初に開くこととし議長が召集する。機関代表会議では、会務報告、予算、決算の承認、第2条2項等会の重要事項を審議決定する。

第15条 幹事会は、議長および幹事をもって構成し、議長が召集する。幹事会には、議長の指名する者を参加させることができる。

(その他)

第16条 本会々則の変更および本会に関する重要事項は、機関代表会議で決める。

- 付則
- 1) 各機関に連絡員をおき事務局に登録する。
 - 2) 本会則は昭和54年4月7日より施行する。
 - 3) 昭和57年6月24日一部改訂（第6条 学生会員の会費）

IUFRO-J News No. 76 平成14年8月31日
 国際森林研究機関連合一日本委員会事務局
 茨城県稲敷郡茅崎町松の里1 森林総合研究所内
 TEL 0298-73-3211 (232) (編集・発行)